

平成 24 年 9 月 21 日

電通総研 『震災一年半後の意識・ライフスタイル』 レポート

電通総研は、震災一カ月後より四半期ごとに生活者の意識を定点観測してきました。このたび、震災発生から一年半を迎え、最新の調査結果とともに過去7回の調査から「生活者に定着した10の意識・ライフスタイル」と「震災後強まってきた意識・ライフスタイル」についてレポートします。

【調査結果サマリー】**1) 震災後一年半を経て定着した10の意識・ライフスタイル (表1、表2参照)**

震災一カ月後の調査以降、常に支持率が60%以上のものを「生活者に定着した意識・ライフスタイル」と捉え、直近の調査においても支持率が高かったものから順に並べると、以下の10の意識・ライフスタイルになりました。

※Q. 東日本大震災を経験して、あなたは今後の生活についてどのようにお考えですか。

() 内は支持率「とてもそう思う」「そう思う」の合計値の2011年4月 ⇒ 2012年9月の変化を記載。

これらは必ずしも最小値と最高値ではないため、詳細は【表1】を参照のこと。

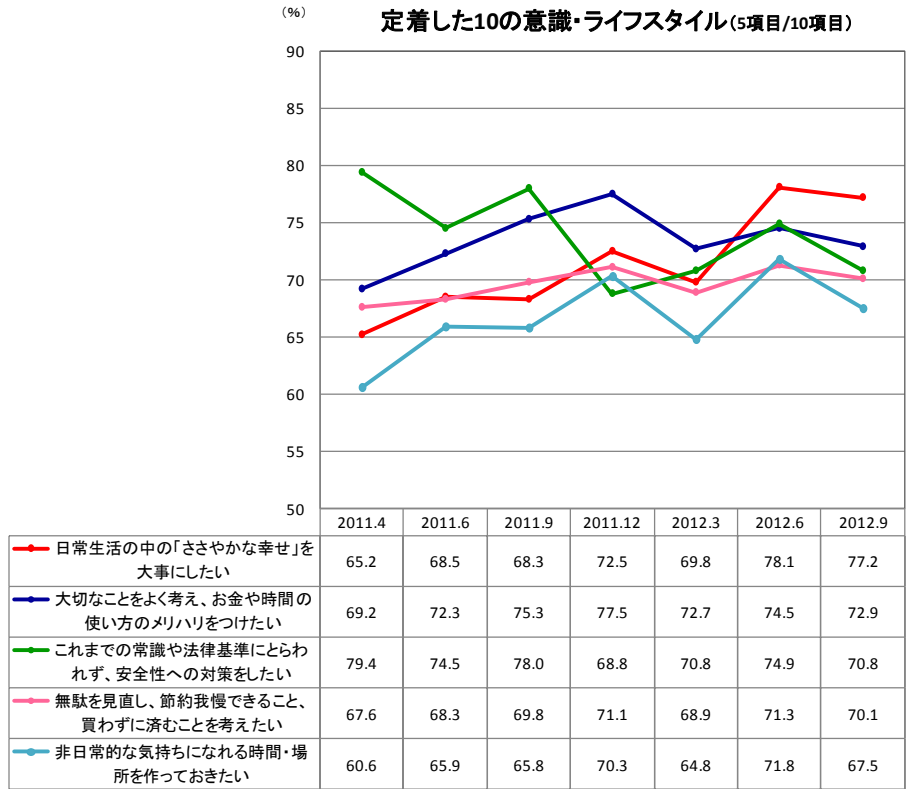
- ①日常生活の中の「ささやかな幸せ」を大事にしたい (65.2% ⇒ 77.2%)
- ②大切なことをよく考え、お金の使い方や時間のメリハリをつけたい (69.2% ⇒ 72.9%)
- ③これまでの常識にとらわれず、想定外の事態への対策をしたい (79.4% ⇒ 70.8%)
- ④無駄を見直し、節約我慢できること、買わずに済むことを考えたい (67.6% ⇒ 70.1%)
- ⑤非日常的な気持ちになれる時間・場所を作っておきたい (60.6% ⇒ 67.5%)
- ⑥節電や節水の工夫を、前向きに家事や生活に取り入れていきたい (70.3% ⇒ 66.9%)
- ⑦家族の絆や身近な人々との絆をいままで以上に重要にしようと思う (63.9% ⇒ 64.8%)
- ⑧節電を意識しつつ、エネルギー生産・供給の体制などを知りたい (66.0% ⇒ 63.0%)
- ⑨できるだけ本質的な情報を自分で見極め、選んでいきたい (65.7% ⇒ 62.3%)
- ⑩「社会に貢献しよう」という姿勢が見える企業を応援したい (65.1% ⇒ 60.5%)

2) 震災後強まってきた意識・ライフスタイル (表1参照)

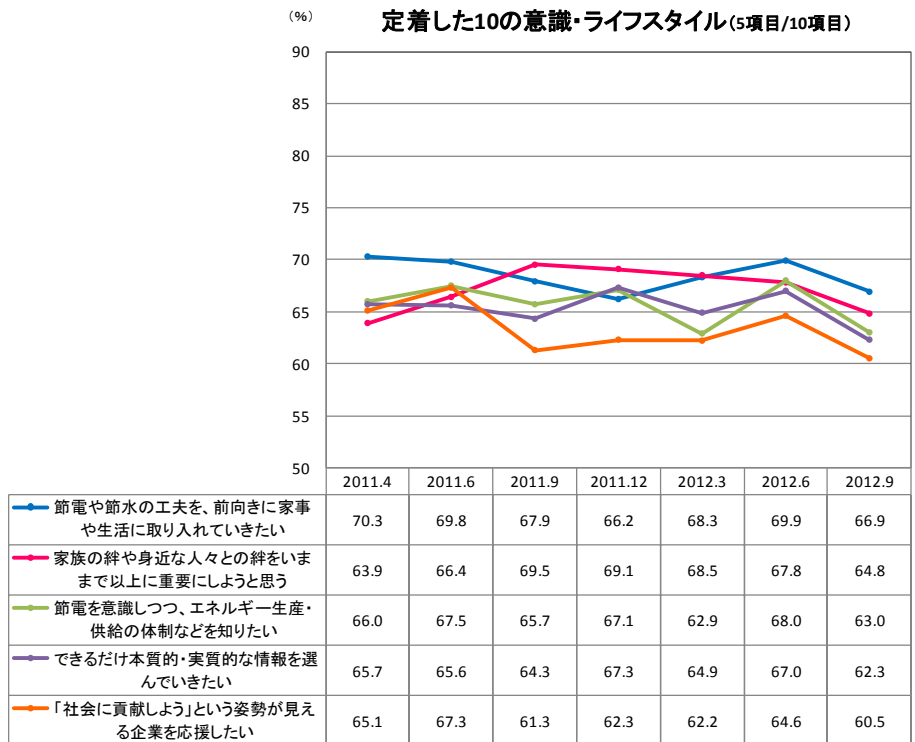
上記①から⑩の中でも、特に以下の3項目は震災後一年半の間で支持率が上昇傾向にあり、「震災後強まってきた意識・ライフスタイル」として分析しています。

- ◆無駄を見直し、節約我慢できること、買わずに済むことを考えたい
- ◆日常生活の中の「ささやかな幸せ」を大事にしたい
- ◆非日常的な気持ちになれる時間・場所を作っておきたい

【表1】



【表2】



■調査概要

- ・調査対象：全国、20～69歳、男女個人（学生除く）、1,200名
（平成23年4月調査および平成24年3月調査はサンプル数2,000名）
- ・調査時期：平成23年4月～24年9月（震災直後のみ4月に調査。その後は3, 6, 9, 12月に調査）
- ・調査手法：電通マクロミル登録パネル（回答者）を用いたPCインターネット調査

〈このリリースに関する問い合わせ先〉

株式会社電通 電通総研

平井、袖川（そでかわ）、大貫（おおぬき） TEL：03-6216-8458